

2「教育協働」が目指すべき未来？とにかく「教育のあり方」を変えることである！

堂本 彰夫

(1)「学びつながる地域づくりを考えるハイブリッドセミナー」に集まった「思いある人々」！

先日（10/2）、今年度最初の（ちょっと遅すぎるが、事情があつてのことなので仕方がない？）、「学びつながる地域づくりを考える～オンライン事例発表セミナー～」が行われた。このセミナーは、2年前から、「沖縄県立玉城青少年の家」と、私の「教育協働研究所～岳陽舎～」との共催で行っているものであるが、今回は、「学びつながる地域づくりを考えるハイブリッドセミナー」と銘打って、同青少年の家が行った「沖縄県社会教育関係団体連絡協議会」へのアンケート結果に基づいた、「社会教育関係団体の5年後を語り合う2時間」のタイトルで行った。参加者は、対面参加19名、オンライン参加11名の、計30名であつたが（これは、私の方の推計による！）、アンケートに答えてくれた団体の関係者も、数多く足を運ばれていた。それだけ、今回のテーマ、アンケート結果に関心をもたれたのであろうが（ある意味危機感の表れ？）、同所が、こうした機会を設けたことは大いに意義があるし、今後の、新たな展開に期待をもたせるものでもあつた！

そこで、まずは、そのアンケート結果であるが、案の定、そのほとんどが、「会員の高齢化」「後継者不足」「財政基盤の脆弱」に悩まされていることが分かった！「社会教育」という用語の使用を始め、総体的に、その存在意義の主張が後景に退き、その活動の中心的母体であつた、各種の「社会教育関係団体」（子ども会、青年会、婦人会→女性団体、PTA、社会教育委員の会議等）の衰微が心配される中、社会の状況変化が、そうした事態を招いたことは事実であるが、いつまでも手をこまねているわけにはいかない！でも、なかなか、その良い手立てが見つからない？そうした思い（不安や懸念？）の中での調査の実施であり、関係者への呼びかけであつたわけであるが（その意味で、県立玉城青少年の家の思いと発信は、大いに賞賛されるべきものである！）、果たして、現状はそうであつたし、関係者の思いは、本当に、何とかしなければならない！そういうことであつたということである！

セミナーでは、調査結果報告と、それに基づく「社会教育関係団体の5年後戦略と仲間づくり計画」が提示され、参加者同士の情報・意見交換が活発に展開された！この間、繁多川公民館のM館長からの「社会教育の現代的意義と関係団体のあり方」に関する講話や、私なりの助言（実際は期待話！）もさせてもらったが、やはり、時間は足りなかつた！予想通り？ではあるが、いずれにしても、これからである！今後の動きに期待するだけである！とにかく、我が「教育協働」が目指すべき未来？それは、「教育のあり方」を変えることである！そして、それは、社会教育、学校教育、共にである！

なお、ついでながら、利用した「ズーム」より、「パーソナルミーティングルームのミーティング要約」というものがメール送付されてきたが（ホストであるから？）、これを、どのように取り出して（活用して）いけばよいか分からない？ありがたい代物ではあるが、困ったものである（笑）！言葉の変換ミスや意味不明の表記もあり、流石？AIでもあるが、しかし、貴重な記録ではあるので、一応保存しておくことにはしたい（可能な限りの修正をして！）。ただし、それぞれの関係者の思いと覚悟が必要であると最後に述べた私の言は、AIには届かなかつたようではある！残念至極である（笑）？！

(2) どのような「教育のあり方」が求められるのか？だが、ある意味、それは見えている？！

ところで、別シリーズ『岳陽』と共に（第60号）で紹介しているように、「これからの教育のあり方」を指し示しているネット記事を見つけた！それは、私が、過日の参議院選挙で注目した、ある党（チームM）の党首であるA氏の提言であつたが、「公立学校のキャリア教育には何が足りない？…比較的早期に実現可能な施策として、教育の場と民間の力との接続を積極的に進めるべき…教員には荷が重く、あまり得意ではないこの領域を民間と接続することは、合理的…『職業体験』を、広くキャリア教育の文脈で生徒たちの日々のモチベーションとつなげるリアルな場とする…これはすでに小中学校等で行われている…その中身をアップデートできる余地は大きい…」と！まさに、その通りなのである！ただ、これは、東京都の現状に対する提言ではある！とは言え、この提言は、広く全国の小中学校等にも通用するということである！

要は、現在の「職業（場）体験」が、必要な「キャリア教育」となっていないということであるが、「興味や個性に応じて少人数でリアルな行き先を選択できる仕組み」が必要であるということである（すでに実施している公立校もあるようであるが！）。実は、これが、「例のCSの目指すべきところであり、私の言うところの『教育協働』の柱となるべきものである！つまり、何のためにそれを行うのかということであるが、それは、新たな学校と地域社会の関係づくり（地域づくり）であり、そこに生きる人達の学習の場・環境づくり（ひとづくり）であるからである！」私は、そこで、そのように述べたということである！

他には、STEAM 教育 (Science/科学、Technology/技術、Engineering/工学、Mathematics/数学を統合的に学習する「STEM 教育」に、さらに Arts/リベラル・アーツを統合する教育手法) 系領域の「ジェンダーバイアスの解消」等が挙げられていたが、「先端の技術に触れる体験を通して自身の将来像が広がる」。まさに、そこが、これからの学校教育が目指すべきところであろう！そのように、述べられているのである！すなわち、ここでは、「リアルな職業体験の不足」「ジェンダーバイアスの解消」「最前線で働く人のリアルな話を教材に」という、「AI 時代に必要な 3 つの始点 (視点?)」が述べられているわけであるが、私が、注目するのは、当然？、第 3 の「最前線で働く人のリアルな話を教材に」というところである！

残念ながら、そこには「教育協働」という概念は示されていないが、私は、そこに、「社会教育 (関係団体)」の役割や、その存在意義を、新たに見出す (創り出す) 契機を感じるのである！つまり、どうやって、これから求められる「学びの場や関係」を、地域社会全体で創り出していくのかである！そして、それは、やはり「学校教育」と「社会教育」の協力 (教育協働) によるしかないのである！だから、多少乱暴に言えば、「学校教育」とか、「社会教育」とか、個別に扱ってはいけけないのである！彼ら (チーム M) は、国政の舞台に乗った！そのことを踏まえて、そこで大いに奮闘して欲しい！そんなことを、改めて思った次第でもある！彼らには、若さとテクノロジー、そして、次代を見据えたヴィジョンがある (決して表層的な政争の犠牲にはならないで欲しい！)？！

(3) 沖縄にも、こんなことを思い、語れる若者？がいる！新たな「教育協働アカデミー」の予感？

そんな中、まがりなりにも歩を進めてきた、我が「(おきなわ) 教育協働アカデミー」であるが、来る 15 日 (水) に、ある意味「新たな第一歩？」を予感させるセミナーが実現する?!これから、最終的な成案 (プログラム) を得ることになっているが、そこで期待しているのが、A 君 (さん?) のプレゼンテーションである！本日 (10/4)、その原案が送られてきたが、予想以上に (彼には失礼だが?)、よく出来ており、しかも、我々のような老体？には、およそ考えも及ばないようなコンテンツがあり、とても新鮮な感じがした！

やはり、時代は変わったのであり、彼らのような若者 (30 代前半?) の発想と感性、もちろん技術力 (AI を駆使した?) も含めてが、必須のものとなりつつあるのである！余計なことだが、これまでの老体達の思いや苦勞 (経験) を嘲笑ってはいない！これが嬉しいし、貴重なのである！さらにまた余計なことであるが、老兵？は、そんなに簡単には引き下がりがたくないのでもある！未練がましいと言われればそれまでであるが、それなりの自負と次代につなげたいという思いがあるのである?!

それはともかく、当日、どのような資料が用意され、どのようなプレゼンテーションとなるのかは、具体的には分からないが、折角「案」を見せてもらったので、その事前案内の意味も含めて、少し紹介 (PR?) してみると、

1. テーマ (案) AI 時代の社会教育のヒント-プロダクトの改善と非合理の価値-

2. 研修会の目的

1. プロダクトの改善の重要性 団体利用者や資金が集まらない、団体や学校の活動が続かないのは努力不足ではなく、コンテンツ・プログラムの体系的な脆弱性と魅力不足であることを理解する。
2. 時代の変化を捉える必要性 過去の成功体験や従来型の取り組みに固執せず、現代のトレンドに合った組織体制や、学びの場を設計する必要があることを共有する。
3. AI 時代の新しい価値を示す→合理的なものは AI が代替するからこそ、非合理的なもの・人を動かす力・本質を捉える力が、重要であることを強調する。
4. 自分たちの団体に活かせる実践的ヒントを得る→フレームワークや先進事例を参考に、参加者が自団体・学校・行政現場等の改善に役立てられるようにする。

3. タイムテーブル (略)

4. 講話構成

1. 導入 (自己紹介/問題提起: なぜ団体利用者や資金が集まらないのか? ※具体は省略)
2. プロダクト改善の重要性
3. 時代の変化と教育現場の現実 (社会全体の変化/学校・教育現場の課題 ※具体は省略)
4. AI 時代のパラダイムシフト (※具体は省略)
5. AI 時代における非合理と人を動かす力の重要性 (※具体は省略)
6. ティンドロンド適応と振り返りの視点 (※具体は省略)
7. 事例紹介 (※具体は省略)
8. クロージング (※具体は省略)

5. パネルディスカッション 進め方 (※具体は省略)

となっている。流石、次代の発想と用語の使用である！なお、紙幅の関係上省略せざるを得なかったが、「具体は省略」としているところがミソである！そこは、参加してのお楽しみということで (多少冷たいが?)、どこまでの参加案内が出来るかどうかは分からないが、県内外の「心ある人達」には、是非参加して欲しいものである (対面とオンライン、どちらでの参加も可能ですので、ご希望の方は、是非ご一報下さい!) (つづく)